

令和5年度 第5回 東海村スポーツ推進計画推進委員会会議録

1	開催日時	令和5年11月16日(木) 18時30分から19時45分まで
2	場所	東海村歴史と未来の交流館 活動室2
3	出席者 (敬称略)	<委員> 塚原美光, 吉沼玲子, 石丸美代子, 小泉親彦, 竹下浩一, 松坂晃, 高橋和将, 富岡孝明 <事務局> 河西徹雄(教育部長), 深見孝志(生涯学習課長), 物井聡(生涯学習課課長補佐), 川崎彰利(生涯学習課主任), 関嘉人(生涯学習課主事補), 佐藤大樹(東海村文化・スポーツ振興財団スポーツ振興係係長)
4	欠席者 (敬称略)	黒羽根史朗, 小林伸朗, 田畑由紀子, 小川満, 杉山章子, 橋本礼子, 久保田泰世
5	公開又は 非公開の別	公開
6	非公開の理由	—
7	協議・説明事項	・第2期東海村スポーツ推進計画(案)について (1) スポーツの範囲 (2) 数値目標 (3) 推進体制
8	配布資料	資料1…第2期東海村スポーツ推進計画(案) 資料2…第2期東海村スポーツ推進計画 活動指標(案)
9	発言内容	・第2期東海村スポーツ推進計画(案)について 委員) 計画機関の取り組みとして, 推進体制の組織化を進めていけると良い。また, 計画機関と実行機関で定期的な情報共有, 意見交換をしていきたい。 委員) スマイル東海の地域クラブ活動では, 種目によって参加人数に差が生じている。地域クラブ活動は部活動とは異なり希望制となるため, 運動・スポーツを行う生徒の減少が懸念される。また, 運動・スポーツ活動に消極的な児童, 生徒の体力・健康づくりはどこで担保されるかが懸念される。

	委員) 小学生の多くは運動を楽しいものと捉えているが、中学生は運動・スポーツ習慣の有無で二極化されている。部活動についても、会費を支払って地域クラブ活動に参加する必要はないと考える人は一定数出てくると思う。推進計画(案)に記載されている「子どもの運動・スポーツ習慣化」を具体的に実現させる方法を検討する必要がある。 委員) 村の委託事業等で地域クラブ活動の運営が出来れば、住民個人の経済的負担が減るため、村における地域クラブ活動の予算化は重要であると考えます。 委員) 計画の基本的な考え方について、『『する』『みる』『ささえる』『しる』そして『つながる』』の表題及び内容が分かりにくいと感じた。スポーツへの関わり方に、「ささえる」活動を含む考え方を分かりやすく記載できると良い。 委員) 障がい者スポーツに対する関心度は4割と低い。障がい者スポーツ＝障がいを持つ方がやるスポーツという認識があるため、一般の方も楽しめるものだということを知ってもらえれば障がい者スポーツの普及に繋がると思う。 委員) 現状、高校生のスポーツ人口が減少している。特にチームで行うスポーツの人口が減少していると感じているが、教職員の働き方改革による部活動の縮小が一因と考えられる。 委員) 過去にスポーツを行っていた方も年齢を重ねて体を動かしにくくなっているため、高齢者へ向けたウォーキング活動を行うなど、誰でも運動・スポーツ活動に踏み込める道筋や環境を作れると良い。 委員) スマイル東海の教室やスポーツ少年団、地域クラブ活動も含め、運動・スポーツ活動が持つ、人と人との繋げる効果を大切にしたい。 委員) 毎年、各基本目標に対する活動指標のデータを集計して傾向を把握し、目標指標であるスポーツ実施率60%の達成へ向けて行動することが大切である。
10 今後の予定	今回は、1月中旬頃に開催予定。